

令和6年6月19日

お知らせ

課名	子ども未来課
担当	野村、山形、花房
内線	3552、3565、3693
直通	086-226-7347

少子化対策に挑戦する市町村バックアップ事業の勉強会を限定公開！ ～ワークショップにも参加できます～

県と市町村が力を合わせて少子化の要因等を分析し、オーダーメイド型で対策を検討する「少子化対策に挑戦する市町村バックアップ事業」について、本年度、第2回目の勉強会を次のとおり実施しますので、お知らせします。

記

1 バックアップ事業の内容

新たな少子化対策にチャレンジする市町村を対象に、伴走型で人的及び財政的支援を2か年1クールで行う。

- ・国の少子化対策地域評価ツールを活用して、①市町村の現状分析から課題の把握、対策の検討、②対策の実施に向けたサポートまで、一連の支援を行う。

- ・2年間のサポート

- ① 1年目：地域課題把握のための調査等に係る経費について、1市町村100万円を上限に助成（補助率10/10）

- ② 2年目：事業実施経費について、1市町村500万円を上限に助成
事業実施には、国の地域少子化対策重点推進交付金も活用

※第1クール：R5(2023)～、第2クール：R6(2024)～、第3クール：R7(2025)～

2 令和6(2024)年度実施市町村

井原市、高梁市、新見市、美作市、早島町

3 第2回勉強会の開催日時等

日時：令和6年6月27日（木）13：00～17：00

場所：早島町役場 2階 第1会議室（都窪郡早島町前湯 360-1）

参加者：県、実施市町村、国（こども家庭庁、デジタル田園都市国家構想事務局）、
専門家（柴田 浩喜 広島大学大学院客員教授）等

4 勉強会の内容（予定）

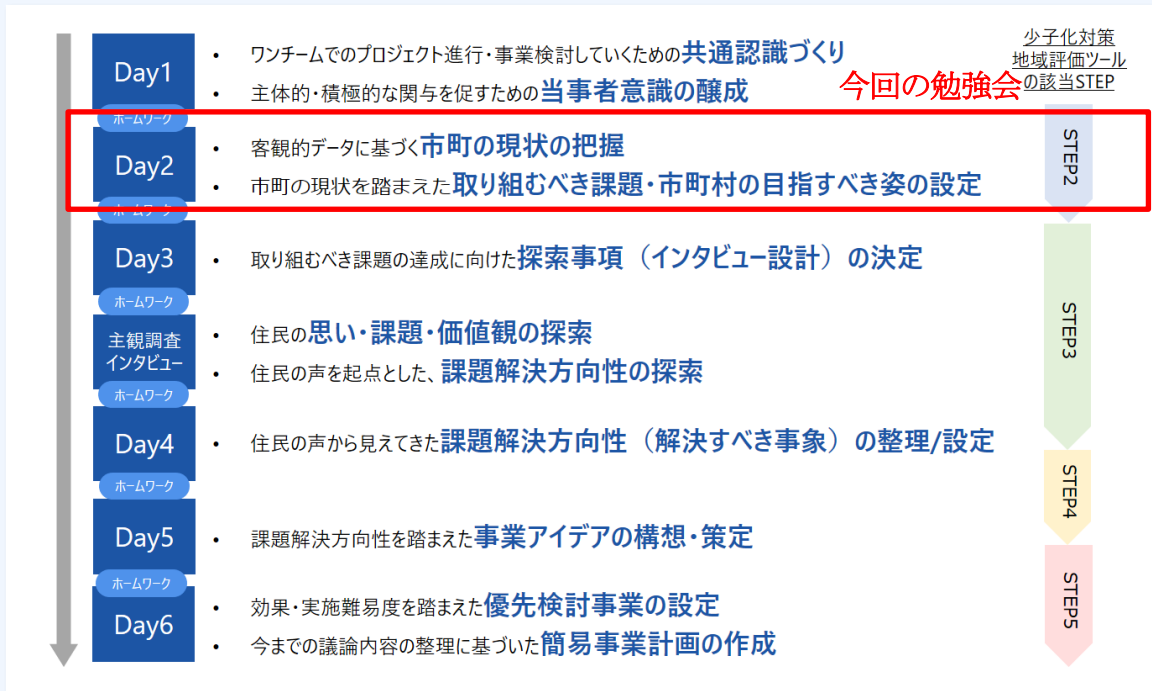
少子化対策地域評価ツールにおける客観的指標をもとに、地域の特徴、課題や取組状況等をワークショップ形式で整理します。詳細は別紙をご覧ください。

5 その他

全6回の勉強会を予定しておりますが、報道機関に公開して実施するのは、第2回の勉強会のみとなります。希望があれば、報道機関の方もワークショップに参加いただけます。

検討フローの全体像と各日程の目的

計6日のワーク（各回3時間程度）とインタビュー調査、各回のホームワークにより事業検討を実施



Day2のワーク内容



Day2のゴール

- 客観的データに基づく**市町の現状の把握**
- 市町の現状を踏まえた**取り組むべき課題・市町村の目指すべき姿の設定**

ワーク内容

ホームワーク
地域指標に基づいた地域特徴・課題仮説・現状の取り組みの整理

少子化対策地域評価ツールにおける客観的指標をもとに、各分野の地域特徴・課題仮説・取り組み状況を整理する。

少子化対策 이슈マップの作成

ホームワークで各市町村が整理してきた情報のうち、地域課題に関する項目を付箋に記入し「少子化対策 이슈マップ」に配置する。 이슈マップ全体を俯瞰しながら、関係する情報に矢印を引き、それぞれの相関関係を整理することで、個々の課題がどのように連鎖し少子化に影響を与えているか、客観的指標がそれぞれどのようにつながっているかを構造的に把握する。

取り組むべき課題と探索の問いの設定

完成した「 이슈マップ」から、現在の対策の有無や客観的指標から読み取れる深刻さ、結び付き課題の多さなどをもとに、各市町村として取り上げたい、解決したいと考える起点となる課題を選定する。
その課題の解決のために、どのようなことを考えるべきか、課題/問いのリフレーミング（p.17参照）という手法を活用し問いを広げること、「探索の問い」を設定する。

Point

- 地域指標を別々でとらえるのではなく、その**つながり/連鎖性を意識しながら構造化**することで、市町村の課題・現状を精緻に把握する
- 이슈マップをもとに**着目する課題を早い段階で意志をもって決める**ことで、課題の探索に時間を使う（着目はしなかったが顕在化している地域課題については各市町独自で対策を検討）

(参考) 少子化対策イシューマップ概要



「少子化対策イシューマップ」とは...

少子化対策地域評価ツールの客観的指標に定められている、「出生に関する指標」「地域指標（「賑わい・生活環境」「家族・住生活」「地域・コミュニティ」「医療・保険適用」「子育て支援サービス」「働き方・男女共同参画」「経済雇用）」を関連性の高いもの同士が近くなるよう円状に並び替えたマップ。

※SDGs de 地方創生「SDGs イシューマップ」©issue+design 2019 を参考に株式会社大広で作成



「出生に関する指標課題」を赤色、「地域指標課題」を黄色、「地域指標課題の結果起る、住民の“課題や欲求”」を青色の付箋で配置し、それぞれのつながりを整理することで、地域課題を構造的に可視化できる。

昨年度（令和5年度）Day2の様子

